

## 学位論文作成状況(2)

|       |                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-03<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2297/2897">http://hdl.handle.net/2297/2897</a>               |

## 学位論文作成状況(2)

向井 亙(国際社会環境学専攻 3 年)

### 1. 学位論文題目

「14～17 世紀、タイ・チャオプラヤー流域窯業の陶磁器輸出の研究」

### 2. 学位論文の目的

14～17 世紀、タイはチャオプラヤー河流域の窯業の展開と海上交易との関わりを、考古学的手法で解明する。研究の主体は、チャオプラヤー流域の窯場で生産された輸出陶磁器（以下、輸出タイ陶磁器）

の編年案の提示となる。提示した編年案に基づき、当該窯業の海上交易参入以前(14世紀代)の特徴、参入後の技術革新と品質変化とその要因を解明する。

### 3. 現在までの研究進行状況

1997～98年、チャオプラヤー流域に分布する窯場群について、窯跡踏査による窯業技術調査を行い、輸出陶磁を生産する以前のシーサッチャナライ窯と北部タイ諸窯が、窯詰め技法、窯構築法、窯道具において共通し、これらの窯場群が同一の窯業技術系統に属することを明らかにした。

2000年夏季以降、タイ輸出陶磁器の編年研究を目的とした東南アジア海域発見の沈没船積載陶磁器の調査を行った。タイ・マレーシアの4箇所の施設・博物館収蔵の沈没船12隻から発見された陶磁器約1300点(中国・ベトナム・タイ)について調査を行った。そして、海難記録や沈没船から発見された中国銭・中国陶磁器を手がかりに、各沈没船の年代推定を行い、生産地研究成果をとり込んだ上で、14世紀後葉～16世紀後葉を約30年間隔にて7時期区分したシーサッチャナライ陶磁器の編年案を作成した。

### 4. 課題と論文作成の見通し

目下の課題は、2002年3月に調査を行ったマレー半島東海岸沖発見の5隻の沈没船積載陶磁器をタイ輸出陶磁器の編年案に追加する。そして、各時期における変化の要因を同時期に流通する中国陶磁器の変化に着目して明らかにする。今年度の論文完成と提出を目指す。

### 5. 研究業績

(論文・研究ノート・報告)

佐々木達夫, 楠 寛輝, 向井 互「北部タイ Wiang Bua, Ban Bo Suak, Phan 窯跡採集陶磁器の素地観察」『金沢大学考古学紀要 25』: 74-117, 2000

向井 互「東南アジア陶磁器研究の到達点」「シーチャン島沖第2沈没船」「クラム島沖沈没船」『季刊考古学』第75号: 22-23, 58-59, 64-65, 2001

向井 互「沈没船資料に基づく、タイ・シーサッチャナライ施釉陶磁器盤形の変遷」『貿易陶磁研究』No. 21: 75-89, 2001

(研究発表・講義)

野上建紀, 向井 互「東南アジア周辺の沈船遺跡—南シナ海・タイ湾を中心に—」日本貿易陶磁研究会第21回研究集会, 青山学院大学, 2000年9月

向井 互「窯跡出土品からみるタイ陶磁の系統と編年」東洋陶磁学会平成12年度第10回研究会, 金沢大学, 2001年3月

向井 互「東南アジアのやきもの」『専修大学総合科

目Ⅱ』, 2002年5月

### 6. 研究助成受給

日本科学財団平成14年度笹川科学研究助成金 研究課題「沈没船資料に基づく16・17世紀におけるタイ輸出陶磁器の編年研究」助成額300,000円

公益信託西田記念東洋陶磁史研究助成基金平成14年度研究助成金 研究課題「中世、タイ産輸出コンテナ陶磁器の基礎的研究」助成額500,000円